

備しなければ、禍根を将来に残すだろう、と指摘した意見などもありました。

土木関係で、道路について多かったのは住宅問題でした。件数二十七件、そのほとんどが、県営住宅または立売住宅をもっと沢山つくって欲しいというもので、昨今の住宅事情の切実な反映を物語っていると思います。

また、中には小中学校教員のための住宅をつくらせて欲しい、特に避地における教員住宅をという要望が三件ほどありました。

その他、河川関係で、水害が起らぬよう河川の改修を望むもの、あるいは砂利採取についての意見等九件、土木工事入札等についての意見、港湾関係についての意見等がありました。

△総務関係▽

総務関係は土木に次いで意見の多かったところですが、

とくに総務関係では、職員の勤務及び接遇状況、並びに県の機構問題等に言及した意見が多く、五十七件を数え県職員に対する県民の目ざしさをあらためて感じました。さらに道路の整備と、交通事情の飛躍的發展による距離感の短縮は、県出先機関等、県の機構に対する整理、統合の意見として表われてきているようです。

次いで多かったのが、県政をもっと理解したいという広報に対する要望で、二十七件、これはこのエコ・カード自体があらためて一般県民に、県政に対する啓蒙を果した結果だとも考えられます。

税務関係に対する要望、意見は十八件ありまし

た。

税務関係で表われた要望、意見の中には、甚だ抽象的な単に税金が高いといった類のものが多く、意見としての具体的な把握に困難でした。

その外、この一、二年の間にクローズ、アップされた県庁舎問題に関する意見が十七件ありました。

この問題については、県議会あるいは一般世論でも大きく議論を呼んだところですが、最終的には蚕糸試験場に決定をみたわけです。しかし、この決定後においてもなお、替否両論の意見が出てきております。

その他総務関係としては、地方、財政関係の意見が出ております。

△農政関係▽

本県の総世帯の、約四〇％にあたる世帯が農業に従事しており、また寄せられたエコ・カードの職業別比率からいっても農業者が最も多い関係から、農政問題に対する意見や要望が土木、総務に次いで多かったのは当然のことと思われます。件数にして百四十六件で、全体の約一三％を占めています。

農政問題で最も意見の多かったものは次のようなものでした。

それは、やはり農業が他産業に対し低い、その所得格差を縮めたいといったもので、県や国の農業施策に期待するところが大きいものがあります。

さらには、これらに関連する問題として、農業労働力の減少、農業後継者の問題、自立農家の育成等が出ております。

り、また農業構造改善事業の推進に對しての意見、果樹、畜産、その他農業技術の指導を望むもの等がありました。

夫婦ともろく啞者で、県内に職がなく、夫は県外に出稼ぎに行つて、生活を共にする機会が少いので、食しくとも家族が寄り添って生活が出来るように、県内での就職を望むといった、一ろく啞者の妻の手紙でした。

これらの指導と関連するもので、農業改良普及員の増員を望む声も出ております。

このように、現在転換期に直面している日本の農業が抱えている苦悩が、ほとんどそのままこのカードの中に、個々の農民の現実的な問題として、意見あるいは要望といった形で提出されました。

△民労関係▽

民労関係の全件数は、百十九件で、この中で最も多かったものは、社会関係で、民労全体の約四〇％を占めています。

この部門で出てきたものは毎回紹介してきているように、まず、生きることにその生活のほとんどが費やされているといった人々の声が多かったことです。

いわゆる生活保護世帯と保護世帯に入らない、ボーダーラインの問題は、この行政担当部門にとっても困難な問題だとうかがえました。

これらの人々が抱えている、切実な生活の訴えは、県政、または国政のあらゆる部門に関連する大きな問題を内蔵しているように思われます。

また次に民労部門で多かった職安問題にも関連してゆく問題でもあると思えます。

職安関係では第二回目のエコ・カードの報告でも紹介しましたが、映画「名もなく、食しく、美しく」をそのまま持って来たようなケースもありました。

また組織の問題として、農業協同組合についての意見もありました。

県としては、力のある組織の大きな単位農協の実現をめざして、強力に農協の合併を進め、現在すでに約七〇％の目標を達成しているわけですが、個々の農家においては、その保守性が、大筋は合併の意義を認めながら、やはりこの推進に批判的な気持をその一部に持たせているようです。

次に、農業基盤の整備に関するものが多くみられ、特に農道の整備を、といったものもかなりあり



農業構造改善事業に期待する声は大きい

ぐれた景観を紹介して、観光地として開発してもらいたいといった、いわゆる「おらが国さ」式のものもありました。

次に観光部門とほぼ匹敵する率を示した工鉦関係があります。

これは主に工場誘致に県は力を入れてもらいたいといったもので、新産都市に関連した意見としても出てきております。

その外商政関係で、最近の物価問題、中小企業の保護育成について、金融関係等の意見がありました。

水産関係では漁港整備に関するものが、天草、芦北地区から出ております。

△企画関係▽

企画関係は六十三件で、その八〇％近くは第一回のエコ・カードで出てきたものです。

これは第一回のエコ・カードで新産都市問題をアンケートとして提出した結果に刺戟されたものと思われま

それで意見の大部分は新産都市に関連したもので、単なる名目に終らぬよう、具体的な施策を望むといったものが多く、その外に国鉄鹿児島線の複線化、電化の早急な推進、相良ダム問題等の意見が出ております。

△衛生関係▽

衛生関係は三十六件でその大部分は環境衛生関係でした。

またこの意見は熊本市の住民からのものが多く、塵芥の処理、下水道問題についてのものなど、熊本市以外からは水道施設の設置を望む声があ